

串間市文化財調査報告書第16集

市内遺跡発掘調査報告書

1997

宮崎県串間市教育委員会

序

串間市内には各種・各時代の埋蔵文化財が多く点在しており、串間市教育委員会ではこれらの保護・教育的活用に努めているところでありますが、近年の開発事業等の増加により埋蔵文化財の保護と開発行為との調整が大きな課題となっています。このような状況の中、当教育委員会では開発行為が埋蔵文化財に影響を与えることが危惧される場合について事前の試掘調査を実施し、埋蔵文化財の有無・範囲・性格等についての報告書を作成して、調整のための協議資料としています。

本年度は市内大字大平字向鶴他において試掘調査を実施し、当報告書を刊行することとなりましたが、当報告書が文化財保護への理解に役立つとともに、社会教育・学校教育等の場で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査を実施するにあたってご協力いただきました関係諸機関並びに市民の皆様に対して、心から感謝申し上げます。

串間市教育委員会

教育長 岩下斌彦

例　言

1. 本書は、宮崎県串間市教育委員会が国県の補助を得て平成8年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は市内に所在する遺跡のうち、送電線鉄塔建設計画のある大字大平字向鶴の向鶴第1遺跡ほか5地点について試掘調査を実施した。
3. 遺跡の名称は小字名による。
4. 発掘調査は、串間市教育委員会が主体となり、同主事宮田浩二が担当した。
5. 調査組織は以下の通りである。

調査主体　串間市教育委員会
教　育　長　岩　下　斌　彦
社会教育課長　岡　田　弘　一
文　化　係　長　川　上　哲　二（庶務担当）
主　　事　　宮　田　浩　二（調査・執筆・編集担当）

6. 報告書中の方位は磁北である。
7. 出土した遺物は串間市教育委員会で保管している。

本文目次

1. 遺跡の位置と環境	1
2. 調査に至る経緯	2
3. 調査の内容	2~3
4. まとめ	3
報告書抄録	9~10

挿図目次

第1図 調査対象地位置図	1
第2図 向鶴第1遺跡概要図	2

図版目次

図版1 トレンチ状況写真	4~7
図版2 出土遺物写真	8

1. 遺跡の位置と環境

今回、調査を実施した6地点についての位置と環境は以下のとおりである。

①大字大平字向鶴地点

串間市内を南北に継貫する福島川の支流である大平川の左岸(高則地区)に形成された河岸段丘で、過去に段々畑として活用されていたようであるが、現在は杉の植林される山林となっている。

②向鶴第1遺跡(大字大平字向鶴)

①地点から下流に400m程のシラス台地上に位置し、平成2年度の遺跡詳細分布調査において土器片の散布が認められたことから周知の遺跡として取り扱ってきた地点である。

③大字一氏字大塚原地点

串間市立大東小学校から北西に1Km程の県道都城串間線沿いに位置する丘陵上の畠地で南北に長く形成されるシラス台地(通称大東原)の最北部にあたり、周辺には縄文時代を主とした遺跡が点在する。

④矢床第1遺跡(大字一氏字大塚原)

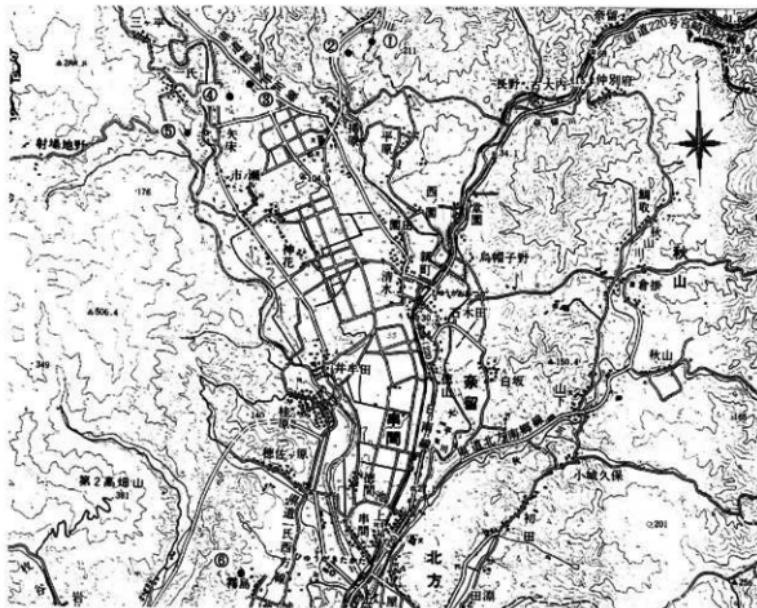
③地点から南西に200m程の同台地上、福島川の左岸に位置する。平成2年度の遺跡詳細分布調査において土器片の散布が認められた地域である。

⑤大字一氏字松ヶ迫地点

福島川の右岸に形成されたシラス台地上に位置し、④地点の南西対岸にあたる。周知の遺跡である松ヶ迫遺跡に隣接する。

⑥大字西方字蓬ヶ野地点

串間市立福島中学校から北へ1Km程の霧島地区、山稜の南東最端部に位置し、現況は杉林となっている。



第1図 調査対象地位置図(1/50000)

- ①大字大平字向鶴地点②向鶴第1遺跡③大字一氏字大塚原地点④矢床第1遺跡
⑤大字一氏字松ヶ迫地点⑥大字西方字蓬ヶ野地点

2. 調査に至る経緯

今回の調査は、送電線(筑肥福島線)鉄塔建設設計画に起因している。平成8年5月上旬、事業者である九州電力宮崎支店より予定地についての文化財の有無、取扱についての照会があり、協議及び現地調査の結果、市内における鉄塔建設予定地のうち、6地点について試掘調査あるいは遺跡確認調査を施すこととなった。調査は事業者の諸手続き終了を待ち、平成8年11月14日から平成8年12月18日にかけて実施した。

3. 調査の内容

調査はトレンチ(3m×1m標準)法により実施した。

① 大字大平字向鶴地点

調査対象地(約400m²)において、等高線に直行して3本、平行して1本のトレンチ(Tre1～Tre4)を設定して調査を行った。各トレンチでの土層の状況はいずれも薄い表土(黒色土)の下に拳人から人頭大の礫を含む明褐色層が見られるというもので、これ以下はシラスが堆積している。明褐色層中の礫には人的な加工の痕跡は認められず、また、他の遺物の出土も見られなかった。

② 向鶴第1遺跡

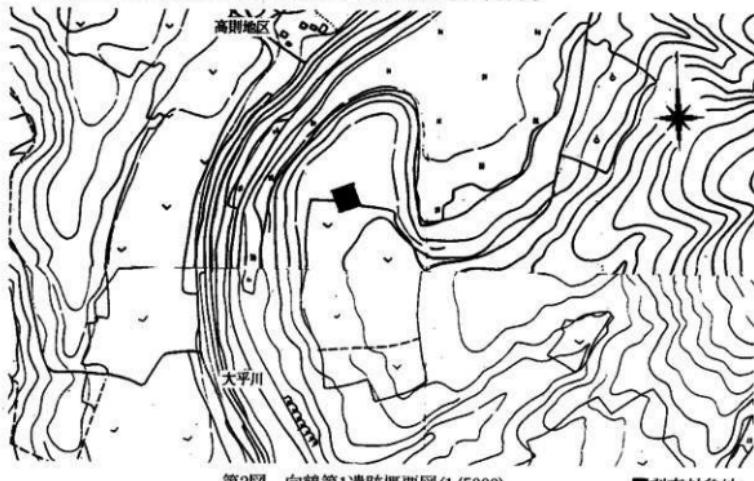
調査対象地(約200m²)は標高約85mのほぼフラットな地形で、ここに4本のトレンチ(Tre5～Tre8)を設定した。結果として縄文時代早期及び後晩期の2面の文化層が確認されたが、各トレンチの状況は以下のとおりである。

Tre5：約20cmの表土の下位に60～70cm幅の搅乱土(アカホヤに黒色土混入)が見られ、この層が下位の早期相当層である褐色土層の上部を若干破壊しているが、褐色土層は約30cmの幅を持ち、貝殻条痕文土器及び焼石を含む。これ以下は硬質の暗褐色土層となり中部にブロック状の薩摩火山灰を含むが、この上下に遺物は見られない。

Tre6：約10cmの表土の下位には15～30cm幅で北西に向て薄くなる黒色土が見られ、同層底部で後晩期と思われる土器片が出土している。また、この下位では約70cm幅のアカホヤを挟んで約50cm幅の褐色土層となり、早期土器及び石錐を含む。これ以下は上部に薩摩火山灰を含む硬質暗褐色土層となり遺物は含まない。

Tre7：約20cmの表土の下には耕作の影響と思われるアカホヤ及び黒色土上の搅乱土が見られ、この下位に約50cmのアカホヤを挟んで約60cmの早期包含層となり、若干の土器片を含んでいる。これ以下は薩摩火山灰を含む暗褐色土層で遺物は含まない。

Tre8：土層の状況等はTre7と同様で、早期土器片を若干含む。



第2図 向鶴第1遺跡概要図(1/5000)

■調査対象地

③大字一氏字大塚原地点

調査対象地(約260m²)は丘陵上のフラットな畑地で、ここに4本のトレンチ(Tre13～Tre16)を設定した。全体的に旧地形は北方向へ激しく傾斜しており、南側の丘陵を削って客土し畑としているようである。このため調査対象地の南部に設定したトレンチではアカホヤ以下までが削平されている状況が見られ、北部に設定したトレンチでは厚い客土のために自然層に到達できなかった。客土中の礫の他は遺物は認められない。

④矢床第1遺跡(大字一氏字大塚原)

調査対象地(約230m²)は台地上のフラットな畑地で、ここに4本のトレンチ(Tre9～Tre12)を設定している。各トレンチの状況ではアカホヤ以下までの擾乱が目立ち、地力回復目的のいわゆる「天地がえし」が全面的に行われているようである。極一部でアカホヤ以下の繩文早期相当層が見られたが、遺物は認められなかった。

⑤大字一氏字松ヶ迫地点

過去に圃場整備を受けた経緯のある地点であるが、遺物の散布が見られたため調査対象地(約300m²)に4本のトレンチ(Tre17～Tre20)を設定して調査を実施した。各トレンチともに薄い表土の下位に若干の客土が見られ、これ以下は礫を含みながらシラス層へと移って行き、客土中に土器小片が見られた他には遺物の出土は認められなかった。

⑥大字西方字蓬ヶ野地点

調査対象地(約360m²)は階段状の地形をしており、ここに4本のトレンチ(Tre21～Tre24)を設定した。全体的に表土の下位にはしまりのない褐色土の厚い堆積が見られ、部分的にはこれ以下にアカホヤ(二次堆積)が見られたが、旧地形は東ないし南方向へ傾斜しており、遺物の出土は認められなかった。

4.まとめ

調査に至る経緯で記述したように、今回の調査は送電線鉄塔建設設計画のある6地点についてのものである。結果として1地点(向鶴第1遺跡)のみが遺跡として確認され、その性格を把握することができた。今後、文化財保護について事業主と協議を行う際の資料とともに、遺跡は立地する台地上のほとんど全城に展開するものと考えられることから、将来、当地において遺跡に影響を及ぼす行為が発生した場合の参考資料、取扱事例としたい。また、当地において大平川沿岸で埋蔵文化財包蔵地が確認されたのは大平遺跡(繩文草創期・後期)に次いで2例のことであり、遺跡が多いと目されてきたこの地域を調査していく上での足がかりとなる意味で成果をあげることができた。

図版1 トレンチ状況写真



Tre 1



Tre 2



Tre 3



Tre 4



Tre 5



Tre 6



Tre 7



Tre 8



Tre 9



Tre 10



Tre 11



Tre 12



Tre 13



Tre 14



Tre 15



Tre 16



Tre 17



Tre 18



Tre 19



Tre 20



Tre 21



Tre 22

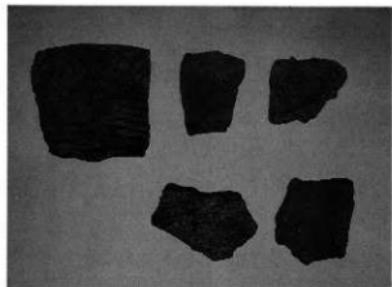


Tre 23

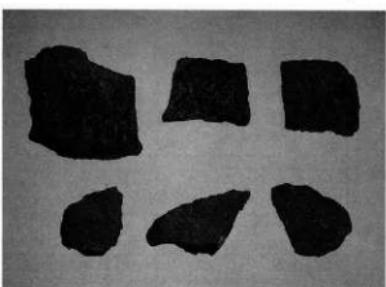


Tre 24

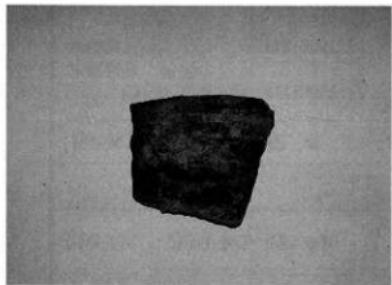
図版2 出土遺物写真



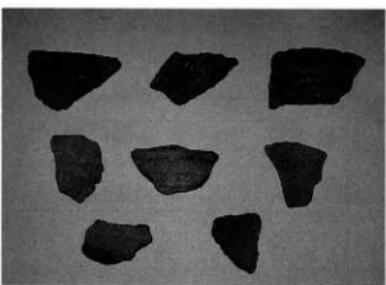
Tre 5



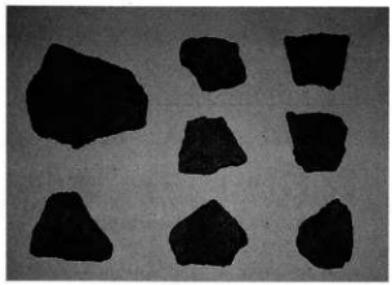
Tre 6



Tre 6



Tre 7



Tre 8

報告書抄録

フリガナ							
書名		市内遺跡発掘調査報告書					
シリーズ名		串間市文化財調査報告書					
シリーズ番号		第16集					
編集者名		宮田浩二					
発行機関		宮崎県串間市教育委員会					
所在地		宮崎県串間市大字西方6524-58					
発行年月日		平成9年3月31日					
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
オオヒラ ムコヅル 大字太平字向鶴 地点	クシマ 申間市大字太平 ムコヅル 字向鶴	31° 40' 50" 付近	131° 14' 40" 付近	1996.11.14 1996.11.18	20m ²	送電線鉄 塔建設計 画西	
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
		なし	なし				
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
ムコヅル 向鶴第1遺跡 原地点	クシマ 申間市大字太平 ムコヅル 字向鶴	31° 40' 50" 付近	131° 14' 30" 付近	1996.11.19 1996.11.25	20m ²	送電線鉄 塔建設計 画	
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
散布地	縄文時代	集石遺構	土器・石器				
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
イチウジ オオワカ 大字一氏字大塚 原地点	クシマ 申間市大字一氏 オオワカル 字大塚原	31° 40' 30" 付近	131° 13' 50" 付近	1996.12.04 1996.12.09	20m ²	送電線鉄 塔建設計 画西	
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
		なし	なし				

フリガナ 所収遺跡名		フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
セトコ 矢床第1遺跡		クシマ 串間市大字一氏 字大塚原	イチウジ 31° 40° 30° 付近	131° 13° 40° 付近	19961127 19961204	20m ²	送電線鉄 塔建設計 画
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
散布地	不詳	なし	なし		なし		
フリガナ 所収遺跡名		フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
イチウジ 大字一氏字松ヶ チコ 迫地点		クシマ 串間市大字一氏 字松ヶ迫	イチウジ マツガ マツガサコ 20° 付近	31° 40° 20° 付近	131° 13° 20° 付近	19961209 19961212	20m ²
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
		なし	なし		なし		
フリガナ 所収遺跡名		フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ニシカタ 大字西方字蓬ヶ ノ 野地点		クシマ 串間市大字西方 ヨモギノ 字蓬ヶ野	ニシカタ 28° 40° 付近	131° 13° 50° 付近	19961212 19961218	20m ²	送電線鉄 塔建設計 画
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
		なし	なし		なし		

串間市文化財調査報告書第16集

市内遺跡発掘調査報告書

1997年3月

発行 串間市教育委員会
印刷 (有) 串間新生社印刷